

# データベースの作成及びマイクロフィルムの 利用法の検討について

— 昭和60年度研究部  
「調査記録の保管・活用法の検討」の報告 —

金子 進

## はじめに

このレポートは、昭和60年度研究部「調査記録の保管・活用法の検討」班の活動のうち、主として情報検索部門についての報告である。ただしどの事業についても昭和60年度内に完了したものではなく、61年度以降においてさらに十分な検討を加える必要がある。本レポートにおいて不備不十分と思われる点を指摘していただければ幸いである。

## 1. データベースの作成

60年度は、59年度からの継続となっていた「考古文献資料を中心としたデータベース」の作成<sup>1)</sup>に加えて、新たに「年報データベース」の作成に着手した。

データベースは、すでにその効用を論じる段階はすぎ、実用にむけての環境整備を実施するステップにあるといえる。すでにアメリカなどではオンラインデータベースがパーソナルな利用をされており、端末さえあれば誰でも必要な情報をすぐに利用できる状況にある。この情報化社会を支えているものは豊富なデータベースの提供と安い通信回線の利用料であろう。

一方わが国においては、パーソナルコンピュータの普及に比べるとデータベースの利用はきわめて少ない。データベースのエンドユーザーは研究機関や企業に限られているのが現状で、個人用のコンピュータの多くはテレビゲームに使われるが、埃をかぶっているか、およそそんなところであろう。一般のユーザーがデータベースを利用できない背景には、潜在的利用者の需要を喚起するようなデータベースが供給されていない点が多い。

もちろんこの他にも通信回線利用料の問題、情報は有償ではないという利用者の誤った価値概念などいくつかの障害が考えられる。

そこで、研究部として、複数のデータベースを用意し、職員や一般考古研究者を対象としたデモンストレーション用に利用でき、さらに将来的にも十分需要が見込まれる「年報データベース」の作成に着手した。

## 「年報データベースの概略」

「年報データベース」は、年報に記載された事項をそのまま、もしくは簡略化して入力した。また入力の迅速化を図るため、次の項目はコード化した。

- 市町村名
- 事業名
- 事業者名
- 調査区分
- 時期
- 内容

### (1) 入力項目

「年報データベース」に入力してある項目は次のとおりである。

#### a. 登録番号

入力した順に機械的に付していく番号で、入力件数及び検索結果のカウントに利用する。

#### b. 遺跡名

年報記載の遺跡名をそのまま入力した。  
遺跡名については、別の名称がある場合にその別称からの参照が可能なおく必要がある。これには二つのケースが考えられる。一つは“をみよ”の形で示し、当該データへ導びく方法で、もう一つは“をもみよ”の形で示す方法である。

前者の例としては、大谷古墳群がある。(画面1) 大谷古墳群とは、59年度より本調査が実施されている川焼台遺跡の東側部分に展開する古墳群

の旧称である。この古墳群の調査は川焼台遺跡の名のもとに、集落と統一して実施されており、年報でも川焼台遺跡という名称しか記載されない。そこで大谷古墳群から検索しようとするユーザーには「川焼台遺跡をみよ」と案内することで対処するのである。(画面2)

後者の誘導例としては、やはり川焼台遺跡との関連で草刈古墳群の例がある。草刈古墳群は、一号小銅鐸が出土するに至って、川焼台遺跡集落との関連が指摘され、古墳の下層に展開する集落部

については川焼台遺跡として処理している。すなわち川焼台遺跡についての内容は草刈古墳群にも記載されていることとなり、川焼台遺跡を検索しようとするユーザーには「草刈古墳群をみよ」と案内して誘導してやる必要がある。(画面3) また同様に草刈古墳群からも川焼台遺跡に相互に対照できるようにもなっている。(画面4)

### c. 遺跡コード

センターが使用している市町村コード(3ケタ)と遺跡コード(3ケタ)とをハイフンで結んだ

```

検索: ESC/実行, CTRL C/中止,
      F10/画面消去, HELP/ヘルプ.
** 1: site file**
年 報
登録番号 [ ]
遺跡コード [ ]-[ ]
事業者名 [ ]
遺跡名 [大谷古墳群]
事業名 [ ]
所在地 [ ]
調査期間 [ ] 調査区分 [ ] 調査対象面積 [ ]
遺跡の立地 [ ]
時期 [ ] - [ ]
内容 [ ]
成果(遺構) [ ]
[ ]
[ ]
成果(遺物) [ ]
[ ]
[ ]
[ ]
[ ]
[ ]
特記事項 [ ]
[ ]
[ ]
報告書 [ ]
年報VOL.[ ] page [ ] (財)千葉県文化財センター

Yank Put Dup Up Down Del Clr

```

画面1 大谷古墳群の検索例

```

Q/検索 N/次 P/前 A/追加 U/更新 R/削除 F/ファイル S/画面 C/カレント
M/マスター D/ディテール O/出力 B/終了 ** 1: site file**
年 報
登録番号 [ ] 18]
遺跡コード [ ]-[ ]
事業者名 [ ]
遺跡名 [大谷古墳群]
事業名 [ ]
所在地 [ ]
調査期間 [ ] 調査区分 [1] 調査対象面積 [ ] 本調査
遺跡の立地 [ ]
時期 [ ] - [ ]
内容 [ ]
成果(遺構) [ ]
[ ]
[ ]
成果(遺物) [ ]
[ ]
[ ]
[ ]
[ ]
[ ]
特記事項 [*** 川焼台遺跡をみよ***]
[ ]
[ ]
報告書 [ ]
年報VOL.[ ] page [ ] (財)千葉県文化財センター

1 件見つかりました。
Yank Put Dup Up Down Del Clr

```

画面2 大谷古墳群の検索結果

検索: ESC/実行, CTRL C/中止,  
F10/画面消去, HELP/ヘルプ.

\*\* 1: site file\*\*

年 報

```

遺跡名      [川焼台遺跡      ]      登録番号      [          ]
事業名      [          ]      遺跡コード[  ]-[  ]
所在地      [          ]      事業者名 [  ]
調査期間 [          ] 調査区分 [  ] 調査対象面積 [          ]
遺跡の立地 [          ]
時期 [          ] - [          ]
内容 [          ]
成果(遺構) [          ]
[          ]
[          ]
成果(遺物) [          ]
[          ]
[          ]
特記事項 [          ]
報告書 [          ]
年報VOL.[  ] page[  ]      (財)千葉県文化財センター

```

Yank Put Dup Up Down Del Clr

画面3-1 川焼台遺跡の検索例

Q/検索 N/次 P/前 A/追加 U/更新 R/削除 F/ファイル S/画面 C/カレント  
M/マスター D/ディテール O/出力 B/終了

\*\* 1: site file\*\*

年 報

```

遺跡名      [川焼台遺跡      ]      登録番号      [          ]      141
事業名      [31b] 千原台      遺跡コード [219]-[025]
所在地      [  ]      事業者名 [311] 住宅都市整備公団
[  ]      [草刈字川焼台1695-2他]
調査期間 [590801-600330] 調査区分 [1] 調査対象面積 [6000㎡] 本調査
遺跡の立地 [村田川北岸の台地上, 標高4.5m]
時期 [23] 弥生後期 - [42] 奈良時代
内容 [00] 包蔵地
成果(遺構) [住居跡(弥生後期19,古墳前期8,古墳後期84,奈良時代1,時期不明3)]
[掘立柱建物跡2,方形周溝2,土墳墓2,縄文中期小竪穴12,陥穴状遺構5]
[炉穴2,その他の土壇4,溝10]
成果(遺物) [縄文土器(加曽利E),弥生土器(後期),土師器(五領,鬼高,真間),須恵]
[器,瓦,石製模造品,玉類,鉄製品,銅鏃,石器,人骨,獣骨]
特記事項 [方形周溝のうち1基は地下式竈をもつ主体部を検出し,火葬骨が出]
[土した]
報告書 [          ]
年報VOL.[10] page[19]      (財)千葉県文化財センター

```

2件見つかりました.

Yank Put Dup Up Down Del Clr

画面3-2 川焼台遺跡の検索結果(その1)

Q/検索 N/次 P/前 A/追加 U/更新 R/削除 F/ファイル S/画面 C/カレント  
M/マスター D/ディテール O/出力 B/終了

\*\* 1: site file\*\*

年 報

```

遺跡名      [川焼台遺跡      ]      登録番号      [          ]      201
事業名      [          ]      遺跡コード [219]-[025]
所在地      [  ]      事業者名 [          ]
[  ]      [          ]
調査期間 [          ] 調査区分 [1] 調査対象面積 [          ] 本調査
遺跡の立地 [          ]
時期 [          ] - [          ]
内容 [          ]
成果(遺構) [          ]
[          ]
[          ]
成果(遺物) [          ]
[          ]
[          ]
特記事項 [*** 草刈古墳群をもみよ***]
報告書 [          ]
年報VOL.[  ] page[  ]      (財)千葉県文化財センター

```

Yank Put Dup Up Down Del Clr

画面3-3 川焼台遺跡の検索結果(その2)

検索: ESC/実行. CTRL C/中止.  
F10/画面消去. HELP/ヘルプ.

年 報

\*\* 1: site file\*\*

```
登録番号 [          ]
遺跡コード [    ]-[    ]
事業者名 [    ]
[          ]
遺跡名 [草刈古墳群]
事業名 [    ]
所在地 [    ]
調査期間 [    ] 調査区分 [    ]
調査対象面積 [    ]
遺跡の立地 [    ]
時期 [    ] -[    ]
内容 [    ]
成果(遺構) [    ]
[    ]
[    ]
成果(遺物) [    ]
[    ]
[    ]
特記事項 [    ]
[    ]
報告書 [    ]
年報VOL.[    ] page [    ] (財)千葉県文化財センター
Yank Put Dup Up Down Del Clr
```

画面4-1 草刈古墳群の検索例

Q/検索 N/次 P/前 A/追加 U/更新 R/削除 F/ファイル S/画面 C/カレント  
M/マスター D/ディテール O/出力 B/終了 年 報 \*\* 1: site file\*\*

```
登録番号 [          ] 191
遺跡コード [219]-[014]
事業者名 [311] 住宅都市整備公団
[          ]
遺跡名 [草刈古墳群]
事業名 [31b] 千原台
所在地 [    ] 草刈字池の袋他
調査期間 [580516-590131] 調査区分 [1] 調査対象面積 [8000㎡] 本調査
遺跡の立地 [村田川中流域に臨む北側台地上]
時期 [23] 弥生後期 -[32] 古墳後期
内容 [00] 包蔵地
成果(遺構) [炉穴2, 住居跡(弥生後期11, 古墳前期1) 方形周溝墓2, 古墳7, 土壟10]
[溝4, 竪穴状遺構1, 道路状遺構1, 炭窯1]
[    ]
成果(遺物) [小銅鐸1, 鉄製品(鉄刀, 鉄斧, 鉄鏃), 耳環5, 玉類, 石器, 縄文土器(]
[茅山) 弥生土器(久ヶ原一弥生町) 土師器(五領, 鬼高), 須恵器, ]
[瓦片]
特記事項 [001号跡の上層から小銅鐸が出土したことが特筆される.]
[    ]
報告書 [    ]
年報VOL.[ 9 ] page [19 ] (財)千葉県文化財センター
2 件見つかりました.
Yank Put Dup Up Down Del Clr
```

画面4-2 草刈古墳群の検索結果(その1)

Q/検索 N/次 P/前 A/追加 U/更新 R/削除 F/ファイル S/画面 C/カレント  
M/マスター D/ディテール O/出力 B/終了 年 報 \*\* 1: site file\*\*

```
登録番号 [          ] 211
遺跡コード [219]-[014]
事業者名 [    ]
[          ]
遺跡名 [草刈古墳群]
事業名 [    ]
所在地 [    ] 市原市 [    ]
調査期間 [    ] 調査区分 [1] 調査対象面積 [    ] 本調査
遺跡の立地 [    ]
時期 [    ] -[    ]
内容 [    ]
成果(遺構) [    ]
[    ]
[    ]
成果(遺物) [    ]
[    ]
[    ]
特記事項 [*** 川焼台遺跡をもみよ***]
[    ]
報告書 [    ]
年報VOL.[    ] page [    ] (財)千葉県文化財センター
Yank Put Dup Up Down Del Clr
```

画面4-3 草刈古墳群の検索結果(その2)

事業名コード	事業名
00 a	重要遺跡確認調査
01 a	船橋地区高校
11 a	成田松尾線
11 b	国道296号
11 c	国道297号
11 d	国道409号
11 e	成田小見川鹿島港線
11 f	東総道路
11 g	成田下総線
11 h	生実本納線
11 i	長浦上総線
11 j	県単道路成田安食線
11 k	成田安食線
12 a	桜木町第二団地
13 a	千葉都市モノレール
14 a	大堀川河川改修
21 a	千葉ニュータウン
21 b	空港南部工業団地
21 c	多古工業団地
22 a	高滝導水管
31 a	千葉東南部
31 b	千原台
31 c	萱田地区
31 d	南志津地区
31 e	物井地区
31 f	畑町団地
31 g	千葉ニュータウン関連
32 a	東関東自動車道
32 b	常磐自動車道
33 a	新東京国際空港
35 a	房総導水路
35 b	東総用水
41 a	小児医療センター
42 a	佐倉第三工業団地
42 b	土気工業団地
43 a	伊篠地区
44 a	内黒田地区
53 a	国道51号北千葉
53 b	国道51号野毛平
53 c	国道16号村田地区
61 a	千葉急行
62 a	東葉高速鉄道
63 a	北総開発鉄道

表1 事業名コード表

事業者コード	事業者名
000	千葉県教育委員会
010	学校建設室
100	千葉県
110	道路建設課
120	住宅課
130	都市モノレール建設室
140	河川課
200	県 公営企業
210	千葉県企業庁
220	千葉県水道局
300	公社、公団(国)
310	住宅都市整備公団
320	日本道路公団
330	新東京国際空港公団
340	日本鉄道建設公団
350	水資源開発公団
360	日本国有鉄道
400	公社(県)
410	千葉県都市公社
420	千葉県土地開発公社
430	千葉県農業開発公社
440	千葉県住宅供給公社
500	国
510	文部省
520	文化庁
530	建設省
500	会社
610	千葉急行電鉄株式会社
620	東葉高速鉄道株式会社
630	北総開発鉄道株式会社

表2 事業者名コード表

形のものである。

#### d. 事業名

事業名は表1のようにコード化し、入力・検索ともにこのコードで行う。3ケタのうち上2ケタは事業者名コードの上2ケタと同じになるよう設定したが、11の県道路建設課の事業数が多いため、全データを入力した場合この原則を維持できなくなることは必至で、再検討する必要があるかもしれない。

#### e. 事業者名

事業者名は表2のようにコード化した。上2ケタは、00が県教育委員会、10は県(知事部局)、20は県公営企業、30は国の公社公団、40は県の公社、50は国の機関、60は会社とまず分類し、さらに一の位を利用して細分した。

事業者名で問題となるのは機関の名称の変更であるが、これも将来的に対応する課題になろう。ただし、日本住宅公団は、住宅・都市整備公団として入力してある。

#### f. 所在地

代表的地番を入力する。市町村名は市町村コードにより自動的に付される。

#### g. 調査期間

調査期間は600401-610331のような形で表示する。西暦で入力すべきだという考え方もあり、今後の検討課題の一つであろう。

#### h. 調査区分

調査区分は1:本調査、2:確認調査、3:分布調査とコード化されている。入力時には画面の下にコード表が表示される。

#### i. 調査対象面積

調査対象面積は、年報記載の面積を入力する。古墳の場合は「古墳3基」のように表示する。

#### j. 時期

時期については年報・抄報から得られる情報をもとに、表3のようにコード化して入力した。二以上の時期にわたる場合は、最も古い時期コードと最も新しい時期コードをハイフンで結び表示するようにした。

#### k. 内容

遺跡の内容は表4のようにコード化した。

#### l. 成果・特記事項

画面表示には成果(遺構)、成果(遺物)、特記事

コード	時期	コード	内容
00	先土器時代	00	包蔵地
01	前期旧石器	01	低湿地
02	後期旧石器	10	集落
10	縄文時代	11	貝塚
11	縄文草創期	15	石器集中地点
12	縄文早期	20	墳墓
13	縄文前期	21	土壌墓
14	縄文中期	22	方形周溝墓
15	縄文後期	23	古墳
16	縄文晩期	24	方形周溝遺構
20	弥生時代	30	宗教遺跡
21	弥生前期	31	寺院跡
22	弥生中期	32	経塚
23	弥生後期	33	神社跡
30	古墳時代	40	城館跡
31	古墳前期	50	官衙址
32	古墳後期	51	国衙
40	古代	52	郡衙
41	飛鳥時代	60	生産遺跡
42	奈良時代	61	水田址
43	平安時代	62	須恵器窯
44	奈良平安期	63	瓦窯址
50	中世	64	製鉄址
51	鎌倉時代	65	塩田址
52	室町時代	66	条里
53	南北朝時代	67	牧
54	戦国時代	90	その他
60	近世	91	沈没船
61	安土桃山時代		
62	江戸時代		
70	近現代		
71	明治時代		
72	大正時代		
73	現代		

表4 内容コード表

表3 時期コード表

項は区分されているが、ファイルは一つにまとめられている。これは検索の簡便さをねらったもので、例えば神明社裏遺跡(画面5)の場合、横穴式石室や金銅装大刀は、それぞれ成果(遺構)、成果(遺物)からは検索されない。そこで三つのエレメントを区切らないことによりこれを防いでいるのである。

#### m. 報告書

年報には記載がないが、当該遺跡の報告書が刊

行された場合入力する。この項目は将来的には「考古文献資料を中心としたデータベース」と連結させ、またセンター図書室の当該図書の請求番号を表示するよう改善すべきであろう。

n. 巻・号

年報記載の巻数及び頁数を表示する。

(2) 操作

機械を稼働させ画面6を表示させる。上2行に示された中からキーを一つ選択することにより各

種の操作ができる。ここでは検索方法を簡単に説明する。

(3) 検索

まず画面6の段階からQをキーインする。画面は上2行をのぞいて変化しないが、カーソルの位置が動かせるので、検索したい項目まで移動させて、キーワードを入力する。

画面7では成果の項目を選び「銅」をキーワードとしてある。銅の前後についている\*は前後の文

```

Q/検索 N/次 P/前 A/追加 U/更新 R/削除 F/ファイル S/画面 C/カレント
M/マスター D/ディテール O/出力 B/終了                               ** 1: site file**
年 報
登録番号 [ ] 5]
遺跡名 [神明社裏遺跡 ] 遺跡コード[201]-[042]
事業名 [31a] 千葉東南部 事業者名 [311] 住宅都市整備公団
所在地 千葉市 [椎名崎町750-1 ]
調査期間 [590401-600330] 調査区分[1] 調査対象面積[21000㎡] 本調査
遺跡の立地 [村田川支谷に開析された標高40mの台地上]
時期 [00] 先土器時代 -[60] 近世
内容 [00] 包蔵地
成果(遺構) [先土器ユニット5,縄文前期土壇40,中期住居址1,古墳後期住居址10,]
[円墳4,方墳1,奈良平安時代住居址23,掘立柱建物跡30,大型土壇1,中]
[近世溝状遺構8.]
成果(遺物) [石器,縄文土器,土師器,須恵器,鉄製品(直刀,刀子,鉄鏃,弓金具,農]
[工具),玉類,古銭]
[昨年度調査区に隣接して,ナイフ形石器を含むVII層の遺物群を検出]
特記事項 [古墳群は昨年度調査で検出した3基の前方後円墳と一群をなし,横]
[穴式石室2,木棺直葬墓坑5,を検出,鉄器,玉類の他金銅装大刀出土]
報告書 [ ]
年報VOL.[10] page[13 ] (財)千葉県文化財センター
5 件見つかりました.
Yank Put Dup Up Down Del Clr

```

画面5 神明社裏遺跡の検索例

```

Q/検索 N/次 P/前 A/追加 U/更新 R/削除 F/ファイル S/画面 C/カレント
M/マスター D/ディテール O/出力 B/終了                               ** 1: site file**
年 報
登録番号 [ ] 0]
遺跡名 [ ] 遺跡コード[ ]-[ ]
事業名 [ ] 事業者名 [ ]
所在地 [ ]
調査期間 [ ] 調査区分[ ] 調査対象面積[ ]
遺跡の立地 [ ]
時期 [ ] -[ ]
内容 [ ]
成果(遺構) [ ]
[ ]
[ ]
成果(遺物) [ ]
[ ]
[ ]
[ ]
[ ]
特記事項 [ ]
[ ]
[ ]
報告書 [ ]
年報VOL.[ ] page[ ] (財)千葉県文化財センター
Yank Put Dup Up Down Del Clr

```

画面6 出力画面

検索: ESC/実行, CTRL C/中止.  
F10/画面消去, HELP/ヘルプ.

\*\* 1: site file\*\*

年 報

```

登録番号 [ ]
遺跡名 [ ] 遺跡コード [ ]-[ ]
事業名 [ ]
所在地 [ ]
調査期間 [ ] 調査区分 [ ] 調査対象面積 [ ]
遺跡の立地 [ ]
時期 [ ]-[ ]
内容 [ ]
成果(遺構)[*銅* ]
[ ]
[ ]
成果(遺物)[ ]
[ ]
[ ]
特記事項 [ ]
[ ]
報告書 [ ]
年報VOL.[ ] page[ ] (財)千葉県文化財センター

Yank Put Dup Up Down Del Clr

```

画面7 「銅」の検索例

Q/検索 N/次 P/前 A/追加 U/更新 R/削除 F/ファイル S/画面 C/カレント  
M/マスター D/ディテール O/出力 B/終了 \*\* 1: site file\*\*

年 報

```

登録番号 [ ] 5]
遺跡名 [神明社裏遺跡 ]
事業名 [31a] 千葉東南部 遺跡コード[201]-[042]
所在地 [千葉市 [椎名崎町750-1 ] 事業者名 [311] 住宅都市整備公団
調査期間 [590401-600330] 調査区分[1] 調査対象面積[21000㎡ ] 本調査
遺跡の立地 [村田川支谷に開析された標高40mの台地上]
時期 [00] 先土器時代-[60] 近世
内容 [00] 包蔵地
成果(遺構)[先土器ユニット5,縄文前期土壙40,中期住居址1,古墳後期住居址10,]
[円墳4,方墳1,奈良平安時代住居址23,掘立柱建物跡30,大型土壙1,中]
[近世溝状遺構8.]
成果(遺物)[石器,縄文土器,土師器,須恵器,鉄製品(直刀,刀子,鉄鏃,弓金具,農]
[工具),玉類,古銭]
[昨年度調査区に隣接して,ナイフ形石器を含むⅧ層の遺物群を検出]
特記事項 [古墳群は昨年度調査で検出した3基の前方後円墳と一群をなし,横]
[穴式石室2,木棺直葬墓坑5,を検出,鉄器,玉類の他金銅装大刀出土 ]
報告書 [ ]
年報VOL.[10] page[13 ] (財)千葉県文化財センター

5件見つかりました.
Yank Put Dup Up Down Del Clr

```

画面8-1 「銅」の検索結果(その1)

Q/検索 N/次 P/前 A/追加 U/更新 R/削除 F/ファイル S/画面 C/カレント  
M/マスター D/ディテール O/出力 B/終了 \*\* 1: site file\*\*

年 報

```

登録番号 [ ] 12]
遺跡名 [草刈遺跡F区 ]
事業名 [31b] 千原台 遺跡コード[219]-[028]
所在地 [原市 [草刈字天神台1067他 ] 事業者名 [311] 住宅都市整備公団
調査期間 [590401-600331] 調査区分[1] 調査対象面積[13500㎡ ] 本調査
遺跡の立地 [村田川支谷を臨む台地上西端部]
時期 [12] 縄文早期-[43] 平安時代
内容 [00] 包蔵地
成果(遺構)[住居跡(縄文早期1,弥生80,古墳前期60,後期20,奈良平安60,不明10)]
[溝15(弥生中期V字溝3,後期2を含む),炉穴50,土壙(縄文早期5,弥生1]
[その他10),円形周溝1,方形周溝1,古墳(草刈1号墳) ]
成果(遺物)[縄文土器(茅山,諸磯),弥生土器(宮ノ台,久ヶ原),土師器(五領,和泉]
[鬼高,国分),須恵器,鉄製品,玉類,石製紡錘車,石斧(環状石斧,有角]
[石斧,片刃石斧,挟入石斧等),銅製品(鏃,鏃,和鏡),土製品]
特記事項 [弥生中期後半のV字溝を遡らす大集落.草刈1号墳は墳頂部に主体部]
[木棺直葬]3を検出,鏃,鏃,斧,鏃,矛等の鉄器,銅鏃,玉類等出土 ]
報告書 [ ]
年報VOL.[10] page[16 ] (財)千葉県文化財センター

Yank Put Dup Up Down Del Clr

```

画面8-2 「銅」の検索結果(その2)



Q/検索 N/次 P/前 A/追加 U/更新 R/削除 F/ファイル S/画面 C/カレント  
 M/マスター D/ディテール O/出力 B/終了 年 報 \*\* 1: site file\*\*

登録番号 [ 13 ]  
 遺跡名 [ 草刈遺跡E区 ] 遺跡コード [ 219 ]-[ 029 ]  
 事業名 [ 31b ] 千原台 事業者名 [ 311 ] 住宅都市整備公団  
 所在地 市原市 [ 草刈字下夕道1222他 ]  
 調査期間 [ 590401-600331 ] 調査区分 [ 1 ] 調査対象面積 [ 20000㎡ ] 本調査  
 遺跡の立地 [ 村田川北岸の低平な台地上北東部 ]  
 時期 [ 00 ] 先土器時代 - [ 43 ] 平安時代  
 内容 [ 00 ] 包蔵地  
 成果(遺構) [ 住居跡(五領和泉110,鬼高61,真間国分14),溝(鬼高1,国分1,近世3, ]  
 [ 近代1),陥穴状遺構31,土壙(縄文17,五領8,鬼高5,不明14),ピット群 ]  
 [ (五領) ]  
 成果(遺物) [ 先土器時代石器,剝片,縄文土器(早前中期),土師器,須恵器,灰陶陶 ]  
 [ 器,瓦,縄文時代石器,礫,玉類,鉄製品(鏃,釘,刀,刀子,斧,鏝等),銅 ]  
 [ 鏃,土製品,自然遺物 ]  
 特記事項 [ 鬼高期のある一時期には, E区北側一段下がった場所を楕円形に囲 ]  
 [ む大規模な環濠ヶ検出された ]  
 報告書 [ ]  
 年報VOL.[ 10 ] page[ 18 ] (財)千葉県文化財センター

Yank Put Dup Up Down Del Clr

画面8-3 「銅」の検索結果(その3)

Q/検索 N/次 P/前 A/追加 U/更新 R/削除 F/ファイル S/画面 C/カレント  
 M/マスター D/ディテール O/出力 B/終了 年 報 \*\* 1: site file\*\*

登録番号 [ 14 ]  
 遺跡名 [ 川焼台遺跡 ] 遺跡コード [ 219 ]-[ 025 ]  
 事業名 [ 31b ] 千原台 事業者名 [ 311 ] 住宅都市整備公団  
 所在地 市原市 [ 草刈字川焼台1695-2他 ]  
 調査期間 [ 590801-600330 ] 調査区分 [ 1 ] 調査対象面積 [ 6000㎡ ] 本調査  
 遺跡の立地 [ 村田川北岸の台地上, 標高4.5m ]  
 時期 [ 23 ] 弥生後期 - [ 42 ] 奈良時代  
 内容 [ 00 ] 包蔵地  
 成果(遺構) [ 住居跡(弥生後期19,古墳前期8,古墳後期84,奈良時代1,時期不明3) ]  
 [ 掘立柱建物跡2,方形周溝2,土壙墓2,縄文中期小竅穴12,陥穴状遺構5 ]  
 [ 伊穴2,その他の土壙4,溝10 ]  
 成果(遺物) [ 縄文土器(加曾利E),弥生土器(後期),土師器(五領,鬼高,真間),須恵 ]  
 [ 器,瓦,石製模造品,玉類,鉄製品,銅鏃,石器,人骨,獣骨 ]  
 特記事項 [ 方形周溝のうち1基は地下式壙をもつ主体部を検出し,火葬骨が出 ]  
 [ 土した ]  
 報告書 [ ]  
 年報VOL.[ 10 ] page[ 19 ] (財)千葉県文化財センター

Yank Put Dup Up Down Del Clr

画面8-4 「銅」の検索結果(その4)

Q/検索 N/次 P/前 A/追加 U/更新 R/削除 F/ファイル S/画面 C/カレント  
 M/マスター D/ディテール O/出力 B/終了 年 報 \*\* 1: site file\*\*

登録番号 [ 19 ]  
 遺跡名 [ 草刈古墳群 ] 遺跡コード [ 219 ]-[ 014 ]  
 事業名 [ 31b ] 千原台 事業者名 [ 311 ] 住宅都市整備公団  
 所在地 市原市 [ 草刈字池の袋他 ]  
 調査期間 [ 580516-590131 ] 調査区分 [ 1 ] 調査対象面積 [ 8000㎡ ] 本調査  
 遺跡の立地 [ 村田川中流域に臨む北側台地上 ]  
 時期 [ 23 ] 弥生後期 - [ 32 ] 古墳後期  
 内容 [ 00 ] 包蔵地  
 成果(遺構) [ 伊穴2,住居跡(弥生後期11,古墳前期1) 方形周溝墓2,古墳7,土壙10 ]  
 [ 溝4,竅穴状遺構1,道路状遺構1,炭窯1 ]  
 成果(遺物) [ 小銅鐸1,鉄製品(鉄刀,鉄斧,鉄鏃),耳環5,玉類,石器,縄文土器( ]  
 [ 茅山) 弥生土器(久ヶ原-弥生町) 土師器(五領,鬼高),須恵器, ]  
 [ 瓦片 ]  
 特記事項 [ O O 1号跡の上層から小銅鐸が出土したことが特筆される。 ]  
 報告書 [ ]  
 年報VOL.[ 9 ] page[ 19 ] (財)千葉県文化財センター

Yank Put Dup Up Down Del Clr

画面8-5 「銅」の検索結果(その5)

字列を問題にしないことを意味している。その結果は画面8-1である。下から二行目に示されているように、検索結果は5件であり、Nをキーインするごとに次々に表示が変化する。検索結果のハードコピーを作るにはOをキーインしてやればよい。

もっと絞り込んだ検索が必要な場合は、複数のキーワードを入力することができる。画面9は同じく「銅」と、この他に「千葉市」のコードである201をキーワードとし、千葉市内で銅の出土した

遺跡を検索しようとするところである。その結果は画面10に表示されている。この場合、検索結果は1件である。

#### (4) 実用化への課題

「年報データベース」は、現在のところ入力件数が少なく、デモンストレーション用としても不十分である。週一回という限られた時間では入力作業がほとんど進まないからである。今後は入力作業に従事する補助員の確保が一つの課題になる

```

検索：ESC/実行，CTRL C/中止，
      F10/画面消去，HELP/ヘルプ，
年 報
** 1: site file**

登録番号 [ ]
遺跡コード [201]-[ ]
事業者名 [ ]
所在地 [ ]
調査期間 [ ] 調査区分 [ ] 調査対象面積 [ ]
遺跡の立地 [ ]
時期 [ ] - [ ]
内容 [ ]
成果(遺構) [*銅* ]
[ ]
[ ]
成果(遺物) [ ]
[ ]
[ ]
特記事項 [ ]
[ ]
[ ]
報告書 [ ]
年報VOL.[ ] page[ ] (財)千葉県文化財センター

Yank Put Dup Up Down Del Cir

```

画面9 「千葉市」(201)と「銅」の検索例

```

Q/検索 N/次 P/前 A/追加 U/更新 R/削除 F/ファイル S/画面 C/カレント
M/マスター D/ディテール O/出力 B/終了
年 報
** 1: site file**

登録番号 [ ] 5]
遺跡コード [201]-[042]
事業者名 [311] 住宅都市整備公団
所在地 [ ] 千葉市 [椎名崎町750-1]
調査期間 [590401-600330] 調査区分 [1] 調査対象面積 [21000㎡] 本調査
遺跡の立地 [村田川支谷に開析された標高40mの台地上]
時期 [00] 先土器時代 -[60] 近世
内容 [00] 包蔵地
成果(遺構) [先土器ユニット5,縄文前期土壙40,中期住居址1,古墳後期住居址10,]
[円墳4,方墳1,奈良平安時代住居址23,掘立柱建物跡30,大型土壙1,中]
[近世溝状遺構8.]
成果(遺物) [石器,縄文土器,土師器,須恵器,鉄製品(直刀,刀子,鉄鏃,弓金具,農]
[工具),玉類,古銭]
特記事項 [昨年度調査区に隣接して,ナイフ形石器を含むVII層の遺物群を検出]
[古墳群は昨年度調査で検出した3基の前方後円墳と一群をなし,横]
[穴式石室2,木棺直葬墓坑5,を検出,鉄器,玉類の他金銅装大刀出土]
報告書 [ ]
年報VOL.[10] page[13] (財)千葉県文化財センター

1件見つかりました。
Yank Put Dup Up Down Del Cir

```

画面10 「千葉市」(201)と「銅」の検索結果

う。

入力件数がある程度になり、実際に運用してみると、まだ改善すべき点はかなり多いと思われる。中でも用語の統一、書式の定型化は急務であろう。

「年報データベース」は年報の記載内容を重視しているわけであるが、この年報の記事の書き方にはまったく統一性がみられない。ある人は土器形式まで細かく分けているかと思えば、単に縄文土器、土師器と大枠のみを記す場合もある。また単に石器と書く人もいれば、ナイフ形石器、搔器などと細分する人もいる。シソーラスもない状況でこれだけ規則性のない記載がある以上、この部分からの検索効果は薄いとわがざるを得ない。データベース作成をする、しないにかかわらず、年報の書き方、用語の統一は、十分検討されるべき事項であろう。

## 2. マイクロフィルムの利用法の検討

マイクロフィルムについて60年度は、59年度から実施している各現場において実施したマイクロ化した図面の一部を研究部に移管するとともに、研究部事業（重要遺跡確認調査）の図面のマイクロ化を実施した。また一層の利用を図るため有効な手段について検討した。

### (1) リーダープリンターの導入

利用増大のための方策の第一はリーダープリンターの導入である。マイクロフィルムの利用率が伸びない原因はハードコピーが取れないことにあると考えられる。利用者が実際に欲しいのは、図面をただ見るための機械ではなく、普通の紙の上に記されたコピーなのであることを考えると、リーダープリンターの必要性を痛感せざるを得ない。予算的な措置をとり、すみやかに導入されることが利用拡大のために不可欠であろう。

### (2) マイクロ化の時期

第二はマイクロフィルム作成の時期である。現在は整理作業の完了したものについて、マイクロ化しているようであるが、このタイミングは適当なのだろうか。

マイクロフィルムの作成は、大きな要因となったのは図面の保管という観点からであった。その

ため、整理作業が終了したのから適宜業者へマイクロ化の委託をしているのが現状である。ところが、整理作業中に我々が図面のコピーを必要としないかといえば、相当枚数を複写しているのが現実である。そのたびに業者へ委託するか、または整理担当者がコピーをとるわけだが、この時にマイクロフィルムからコピーを取れば、作業面ではかなり効率的ではないだろうか。大きな原図を引っ張り出し、また収納するよりも手軽に取り扱えるアパチュアカードから拡大したハードコピーをとる方が楽なはずである。

今後は、マイクロ化の時期を整理作業着手以前（図面整理が終っていることは当然である）とし、マイクロリーダープリンターを利用した整理作業のあり方をコストパフォーマンスの面から検討していく必要があるだろう。

### (3) マイクロ検索システムの確立

第三はアパチュアカードの検索システムの確立である。

一般の研究者からの要求は、報告書掲載の原図に集中すると思われる。したがって、報告書の図表番号からただちに当該マイクロフィルムが検索できるようなシステムを作る必要がある。しかし60年度は具体的な方法については検討できなかった。

## 3. まとめにかえて

60年度研究部事業「調査記録の保管・活用法の検討」は、思うように研究部事業に専念できず大した効果を上げることができなかった。兼務の難かしさを物語る一例であろう。特にデータベースの作成は一朝一夕で完成するものではなく、調査員のみならず、専任補助員の割り当てを望むものである。

61年度もひきつづき事業を推進していく予定なので、ご意見ご質問などありましたら、お寄せいただければ幸いです。

## 注

1) これについては、すでに研究連絡誌No.13に報告済みなので、今回は触れていない。

(昭和61年3月28日 2班 千原台事務所  
; 現在 千葉県立布佐高等学校教諭)